

### 建学の精神 EST. 1935 (昭和10年)

- ・キリスト教に基づく人格教育を行います。
- ・専門教科による職業教育を行い、有能な人材を育成します。
- ・自主独立の精神を養います。
- ・国際交流による国際理解教育を行います。

<b>普通科</b> 特進コース 普通コース 健康福祉コース 保育コース インターコース 一貫コース	<b>看護科</b> 看護科 看護専攻科	<b>商業科</b> 商業コース 美容専攻コース 製菓衛生師コース
--	----------------------------	--

### 製菓衛生師コース

### 西日本総合展示場

10月17日(金)～19日(日)までの3日間、西部ガス主催による「くらしが、スマート! 2014 in 北九州」が行われ本校の製菓衛生師コースの生徒がボランティアで参加しました。お客様の誘導・整理、商品のPR、準備、販売の補助など仕事の実践的なことを身に付ける良い機会になりました。また、この日は、本校のイメージキャラクターの「もりおん」も一緒に参加し、会場を盛り上げてくれました。



### 看護科・看護専攻科

### 特別講演



10月22日(水)、献血出前授業講座があり看護科全学年が参加し、献血への理解を示していました。講師に福岡県赤十字血液センター北九州事業所事業課推進係長鍋島喜代隆先生をお迎えし、「いのちの大切さ」と「血液事業の現状と献血基準についての説明」があり若年層の献血率が、10年前に比べ50%減少していること、このままの状況が続くと平成39年には100万人の輸血用血液が不足すると推測されていて、是非、高校生の方にも献血に協力してほしいと訴えていました。



講演中の  
鍋島喜代隆先生

### シャロンカップコンテスト

10月25日(土)、本校主催の第26回シャロンカップコンテストがありました。国際性豊かな生徒の育成と英語教育の振興に寄与する目的で始められたコンテストも地域にすっかり定着し、年々レベルが上がり審査員の先生方も結果を出すのに悩まれていました。結果は、表の通りです。



### 保育コース

### 特別講座

10月18日(土)、特別授業がありました。講師に社会福祉法人北九州市福祉事業団あじさい保育所の瀬戸口晃子先生をお迎えし、「読み聞かせ」の講義をして頂きました。キーボードやいろいろな楽器を使いながら童謡・手遊びの歌の演奏、歌唱と実践を交えた指導に生徒たちは真剣に聞き入っていました。



	氏名	中学校名
1位	本田 ひかるさん	福岡雙葉
2位	山下 可廉さん	福岡女学院
3位	立花 咲紀さん	西南女学院

募集定員(推薦・一般) 340名【普通科 150名／看護科・看護専攻科<五年一貫> 70名／商業科 120名】

推薦入試要項

学 科	コース	出願期間
普通科	特別進学 普通 健康福祉 保育 インターナショナル※ 中高一貫	平成27年 1月9日(金)～ 1月21日(水)  受付 午前9時～午後6時
	看護科・看護専攻科<五年一貫>	※日曜日・祝日は除きます。
商業科	商業 美容専科(女子) 製菓衛生師	※土曜日は午前9時～ 午後3時までとします。

※インターナショナルコースは外国人女子留学生のみ募集

一般入試要項

学 科	コース	出願期間
普通科	特別進学 普通 健康福祉 保育 インターナショナル※ 中高一貫	平成27年 1月9日(金)～ 1月28日(水)  受付 午前9時～午後6時
	看護科・看護専攻科<五年一貫>	※日曜日・祝日は除きます。
商業科	商業 美容専科(女子) 製菓衛生師	※土曜日は午前9時～ 午後3時までとします。

※インターナショナルコースは外国人女子留学生のみ募集

試験日	試験科目(基礎学力)	合格発表
平成27年 1月27日(火)	国語・数学・面接  特進・看護のみ 国語・数学・英語・面接	平成27年 1月29日(木)

試験日	試験科目	合格発表
平成27年 2月4日(水)	国語・数学・社会・理科・英語	平成27年 2月9日(月)

第3回学校見学会

10月11日(土)、第3回学校見学会がありました。250名を超える中学生・保護者の参加があり、第1部の生徒会による学校紹介の後、授業体験が行われ高校の実習や授業を体験していました。また、第3部の部活動紹介ではそれぞれのクラブのパフォーマンスに会場の参加者は大きな拍手を送っていました。最後に、プログラムにはなかった部活生による「よさこい」が披露され、50人による迫力ある演技に圧倒されながらも惜しみない拍手が続いていました。



保育コース授業



美容実習授業



全体会

部活動紹介



披露

「よさこい」



「草創期の黒田藩と栗山大善」黒田家と宇都宮家の抗争④

鎮房は、秀吉から賜った伊予今治十二万石を返上して、豊前国内で所領を賜りたいと、小倉城主毛利勝信を通じて申し出るのでした。毛利勝信は秀吉の家臣で、秀吉に通ずる一番の人と考えたのでしょう。しかし、これが宇都宮家断絶の原因となります。

小倉城主となった毛利勝信は尾張の出身で、秀吉の藤吉郎時代から、弟久八郎高瀬(田川郡岩石城主に)と共に仕えた子飼の家臣でしたから、宇都宮鎮房は勝信を頼って仲介の労を願うことにしたのです。毛利勝信は宇都宮鎮房の願を秀吉に斡施すると共に、自分の領地となった田川郡の旧宇都宮領の柿原に、一時所領を与えて住ませることにします。秀吉にとっては与えた所領を返上して、旧所領に安堵を願い出る鎮房の勝手な要求は許せず、さらに、小倉城に入城した際、謁見の礼もせず、長子朝房を差し向けた失礼は、関白殿下秀吉にとっては、許せるものではありません。抜群の働きをした官兵衛さえ十二万石で不服の一つも云わないのにと、秀吉は怒り心頭に達して、今治の新封土も没収してしまいます。さらに、新封土の付与などもっての外と、既に秀吉には新領土の付与は念頭にありませんが、鎮房は秀吉の旧領安堵の朱印状を待ち続けるのでした。たまたま、秀吉の九州国分で、富山城主から熊本城主に移封された佐々成政が、城主となって二ヵ月後の天正十五年(1587)八月、秀吉の意向を受けて太閤検地を強行します。しかし、これに反対する各地の豪族達が一斉に蜂起して、一揆に発展、大乱は成政だけでは收拾出来なくなります。

小田弘之著書「草創期の黒田藩と栗山大善」より